チャペル班聖書研究　　　担当：岡田

〜創世記第4章〜

1．初見感想と疑問

・カインはやり過ぎだが、神様も依怙贔屓しなくてええやろ…

・エノク…？もしかして…（17節）

・カインの子孫が登場しているけど、これからの創世記の本筋に関わってくるのかしらん？

・～の先祖って割とざっくりしてない？？（20節）

・6世代も後の子孫が出てきても、妻を知るアダム元気すぎだろ。

・今まで主の御名を呼ぶ前はどうしていたの？？（26節）

* レメク陰険すぎるやろ…

2．調べたこと

・ここでのエノクは皆さんの知っているイーノックじゃないです。（セトの子孫と同名）

* カインの子孫は聖書ではもう登場しません。

・〜の先祖は都市機能（文化、経済）を担う職業の誕生を意味しているらしいゾ！

・本章全体に関する既存の解釈

①イスラエルの民は（　）。神が（　）であるアベルを愛した。

②6−7節の説教は何を詰っているの？？

→

③神が誰かを愛する理由は、人間に属さない。

2.5.先生にお伺いしたいこと

・いつから主と人が直接話さなくなるんでしょう…？

・レメクのエピソードの位置づけが良く分らんです…

3．皆に聞いてみたいこと

・カインの言い訳何かに似てない？

・カインコンプレックスって感じたことある？？（答えられる限りでどうぞ）

※カインコンプレックス

カインコンプレックスとは、[ユング](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%82%B0%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%95%E3%83%BB%E3%83%A6%E3%83%B3%E3%82%B0" \o "カール・グスタフ・ユング)が提唱した[精神分析](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B2%BE%E7%A5%9E%E5%88%86%E6%9E%90" \o "精神分析)の概念である。

ユングによれば、親の兄と弟の関係において差別的に愛情を受けた場合、それによって苦しんだ原体験は、兄弟以外の関係にも投影されていくという。このコンプレックスを負う者は、親の愛を巡る葛藤の相手となった兄弟と同じ世代の周囲の人間に対して憎悪を抱くこともあるという。これをユングは[旧約聖書](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A7%E7%B4%84%E8%81%96%E6%9B%B8" \o "旧約聖書)、『[創世記](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%89%B5%E4%B8%96%E8%A8%98" \o "創世記)』[偽典](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%81%BD%E5%85%B8" \o "偽典)『ヨベル書』の神話を基に「カインコンプレックス」と呼んだ。

一般的には、兄弟間の心の葛藤、兄弟・姉妹間で抱く競争心や嫉妬心のことを言うとされる。（wikipediaより引用）

・カインとアベルの話以外でも、現実に兄弟仲の良くない例というのは相当数存在する…。

なんでだろうね？？？（若貴、鳩山？,etc.）

4.映画「エデンの東」見ました。

あらすじは以下の通りです。

*注意：以降の記述で物語・作品・登場人物に関する*[*核心部分*](http://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:%E3%83%8D%E3%82%BF%E3%83%90%E3%83%AC)*が明かされています。*[*免責事項*](http://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:%E5%86%85%E5%AE%B9%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E5%85%8D%E8%B2%AC%E4%BA%8B%E9%A0%85)*もお読みください。*

1917年、カリフォルニア州の小都市サリナス。農場を経営するアダム・トラスク（レイモンド・マッシー）には、双児の息子があった。兄のアーロン（リチャード・ダヴァロス）は真面目な青年で、アブラ（ジュリー・ハリス）という美しい娘と恋仲。弟のキャル（ジェームズ・ディーン）は兄とちがって何かかたくななところがあり、家族から嫌われていた。父からは母親は死んだと聞かされていたが、キャルは近くのモンタリー郊外で酒場を経営しているケートが、実の母にちがいないと思っていた。そして自分は水商売のふしだらな母の血をついでいるから不良なのだと信じこんでいた。アダムは母の生きていることをキャルに告白したが、彼は去った妻がいまどこにいるのか知らなかった。アダムは、野菜を冷凍して東部へ送り込む新しい計画に夢中になっていた。ある夜、キャルはケートの酒場に忍び込み、彼女を「お母さん」と呼んだが忽ち用心棒に叩き出されてしまった。しかし保安官のサムからケートは実の母であることを聞かされた。彼女がアダムを見捨てたあと、アダムはすっかり気力がなくなってしまった経緯も知った。キャルは野菜冷凍の仕事を一生懸命てつだって父の愛を得ようと決心した。アダムは財産の大部分をかけて冷凍野菜の貨車を東部へ送りこんだ。しかし貨車が途中なだれで立ち往生したため、氷がとけ計画は失敗に終わった。その頃、ヨーロッパの戦火はますます激しく、アメリカの参戦は必至となった。キャルは父の損失を償おうと、豆の値上がりに目をつけ、ウィルという男と組んで豆の買い占めを策した。資金に5千ドル要ると聞いて、キャルはケートに頼みこんで融資してもらった。遂にアメリカは参戦した。キャルは豆が着々と値上がりするので喜んだが、平和主義者のアーロンは、はっきり戦争反対を主張した。アブラは看護婦になって働き、アーロンとの恋は変わりなくつづいていたが、一夜、遊園地でキャルに会い、ふと唇をかわしてからというもの、キャルに惹かれる気持ちを押しとどめることができなかった。優しいが何か強さの足りぬアーロンに比して、キャルのたくましい行動力は、アブラにとって頼もしく思われた。キャルは父の誕生日に、豆で儲けた金をそっくりプレゼントした。アーロンは父への贈りものとしてアブラとの婚約を報告した。父はその婚約をとても喜んだが、キャルの贈りものは受けとろうともしなかった。それどころか戦争で暴利を得るとは怪しからぬと、激しく叱りつけた。絶望したキャルを優しくなぐさめたのはアブラだった。アーロンまでが罵しるのを聞いて、キャルは憤満を爆発させた。彼はアーロンをケートの酒場へつれて行き、母親の秘密を暴露した。アーロンはひどいショックをうけて人が変わったようになり、酔いしれて、そのまま軍隊に志願して列車にのりこんだ。停車場へかけつけたアダムは、信頼していた息子の変わりはてた姿を見て、驚きのあまり卒倒し、半身不随になって明日を知れぬ命となった。アブラは病床のアダムに、キャルを許すよう哀願した。アダムはそれを聞き入れ、苦しい息の下からキャルに看病をたのんだ。キャルはやはり父が自分を愛していたと知って、ようやく絶望から救われた。

・なぜカインがアベルを殺す前に、神様はカインに愛情を示すとかしなかったの？？